

科目名	精神看護方法Ⅱ(看護実践) Psychiatric Nursing Ⅱ		担当教員 (研究室番号)	犬飼さゆり (401) 荒木 学 (403)		教員への連絡方法 (メールアドレス)						
履修年次	3年次前期	科目区分	専門科目・広域看護学		選択区分	必修	単位数(時間)	1(30)	授業形態	講義・演習	科目等履修生	否
										オープンクラス	否	
科目目的	本科目は、精神科看護における患者-看護師関係の理論及び治療的コミュニケーション技術について理解すること、精神障がい者に対する精神症状及びセルフケアのアセスメント技術、看護過程の展開について理解し、効果的な看護支援方策について考察することを目的としている。											
ディプロマ・ポリシー(DP)	主要なDP	F 人々の健康的な生活を支援するために、必要な情報を様々な方法により収集する技能を身につけている。										
	関連するDP	D 様々な職種との連携において、看護専門職としての役割を果たすためのコミュニケーション能力を身につけている。(技能・表現) G 身につけた知識を基盤に、収集した情報を科学的・論理的に分析し、人々の健康に関する課題を把握する能力を身につけている。(思考・判断)										
到達目標	1. 精神疾患を抱える方を治療する場への理解を深め、地域生活へ向けた支援について説明することができる。 2. 精神看護における患者-看護師関係の理論、治療的コミュニケーション技術について述べるすることができる。 3. 精神看護において必要な看護技術について理解することができる。 4. 精神障がい者の事例を用いて、看護過程を展開することができる。											
成績評価方法(基準)	①プロセスレコード10%、②看護過程40%、③筆記試験50% ※出席状況：科目合計点より出席状況に応じて最大10%までの減点をする。											
再試験の有無と基準等	再試験：有(①②それぞれ6割を満たしている者に限り再試験を実施する) 再試験受験者の成績評価は再試験100%とする。											
教科書	・精神看護学Ⅰ 精神保健・多職種のつながり(改訂第3版) 南江堂、2022。 ・精神看護学Ⅱ 臨床で活かすケア(改訂第3版)南江堂、2022。 ・パーフェクト臨床実習ガイド 精神看護 第2版 照林社、2015。											
参考書等	・授業時に随時紹介											
学生の主体性を伸ばすための教育方法と学生への期待	精神看護学各論の知識と技術を学び応用することで実践への準備を整えます。精神障がい者の主体性を尊重しリカバリーを支援する、より実践的な看護技術をロールプレイや看護過程の作成を通して学びましょう。精神科看護に必要なとされる技術を身につけることによって自分自身を治療道具として活用できるようになります、しっかり演習して習得しましょう。履修者の主体的で積極的な参加を期待しています。											
備考	・精神看護方法Ⅰを習得していないと履修できない。 ・本科目は精神看護学実習の先修条件である。											
回	学習項目	学習内容							担当教員	授業方法		
1回	オリエンテーション 当事者と家族の理解 リカバリー、ストレス	・オリエンテーション(精神看護方法Ⅱの学習概要について) ・統合失調症当事者または家族の方の体験談から精神障がいについて理解を深める ・リカバリー、ストレスについて理解する。							犬飼,他 (学外協力者)	講義		
2回	患者-看護師関係 治療的コミュニケーション 幻聴の理解 精神症状のある患者へのコミュニケーション	・治療的な患者-看護師関係について学ぶ。 ・精神症状のある患者のコミュニケーションの特徴を理解する。 ・精神症状のある患者へのコミュニケーション技術について学ぶ ・幻聴の世界を体験し、幻聴を理解する							犬飼,他	講義 演習 (DVD)		
3回	コミュニケーション演習①	・ロールプレイを通して精神症状のある患者のコミュニケーションの実際について学ぶ ・ロールプレイを通してアセスメントに必要な情報収集を行う。							犬飼,他	演習		
4回	コミュニケーション演習②	・患者-看護師関係における障害について理解する ・記述したプロセスレコードを用いて、自分の思考、感情、行動を振り返る。							荒木,他	演習		
5回	精神科看護ケアと関連技法	・精神科看護に関連した治療方法(集団療法、認知行動療法、SST、心理教育、作業療法、レクリエーション療法、園芸療法・リラクゼーション等)について学ぶ。							荒木,他	講義 演習		
6回	精神科薬物療法と看護	・精神科領域で用いられる薬物の作用と副作用について学ぶ。 ・薬物療法を受けている精神障がい者への看護について学ぶ。							犬飼,他	講義 演習		
7回	セルフケア理論	・オレム・アンダーウッズのセルフケア理論について学ぶ。							犬飼,他	講義 演習		
8回	セルフケア理論に基づいた看護過程の展開 ①グループワーク	・事例(急性期・慢性期)をもとにセルフケア理論を用いて看護過程を展開する。 ・情報の整理を行う。							荒木,他	演習		
9回	セルフケア理論に基づいた看護過程の展開 ②グループワーク	・事例(急性期・慢性期)をもとにセルフケア理論を用いて看護過程を展開する ・情報収集、整理、アセスメントを行う							荒木,他	演習		
10回	セルフケア理論に基づいた看護過程の展開 ③グループワーク	・事例(急性期・慢性期)をもとにセルフケア理論を用いて看護過程を展開する ・アセスメントを統合し、看護問題を特定する							荒木,他	演習		

回	学習項目	学習内容	主担当 教員	授業 方法
11回	セルフケア理論に基づいた看護過程の展開 ④	・事例（急性期・慢性期）をもとにセルフケア理論を用いて看護過程を展開する ・特定された看護上の問題をもとにケアプランを作成する	荒木, 他	演習
12回	セルフケア理論に基づいた看護過程の展開 ⑤	・事例（急性期・慢性期）をもとにセルフケア理論を用いて看護過程を展開する。 ・行動計画表の記載方法について学ぶ。	荒木, 他	演習
13回	安全管理に関する看護	・自傷、自殺防止への援助について学ぶ ・身体拘束に伴う看護について学ぶ ・攻撃的行動への介入、衝動性のコントロールなどについて学ぶ ・陽性症状のある患者に対する対応について学ぶ。	荒木, 他	講義 演習
14回	精神科訪問看護 精神障がい者の地域生活を支援する制度・サービス	・精神科訪問看護について学習する。 ・地域で生活する精神障がい者が利用できる制度・サービスについて理解する。	犬飼, 他	講義
15回	家族への援助	・精神障がい者の家族への援助を学ぶ。 ・家族の体験、家族理論、家族のアセスメント、家族を対象とした精神看護、家族療法、家族支援について学ぶ。	犬飼, 他	講義

学 習 課 題

1回目課題（事前）	1回目学習内容について、教科書関連部分（Ⅰ p.15-18）（Ⅱ p.120-134）を読んでおく。
2回目課題（事前）	2回目学習内容について、教科書関連部分（Ⅱ p.10、 p.219-223）を読んでおく。
3回目課題（事前）	3回目学習内容について、教科書関連部分（Ⅱ p.219-223）を読んでおく。
4回目課題（事前）	4回目学習内容について、教科書関連部分（Ⅱ p.223-228）を読んでおく。 統合失調症、うつ病について、復習しておく。
	（事後）：ロールプレイの内容をプロセスレコードに記入し、次回授業開始時に提出する。
5回目課題（事前）	5回目学習内容について、教科書関連部分（Ⅱ p.191-212、p.228-229）を読んでおく。
6回目課題（事前）	6回目学習内容について、教科書関連部分（Ⅱ p.151-174）を読んでおく。
7回目課題（事前）	7回目学習内容について、教科書関連部分（Ⅱ p.110-115）を読んでおく。
8回目課題（事前）	9回目学習内容について、教科書関連部分（Ⅱ p.98-115）を読んでおく。
	（事後）：看護過程の生物学的側面、心理学的側面、社会的側面を記入する。
9回目課題（事前）	10回目学習内容について、教科書関連部分（Ⅱ p.98-115）を読んでおく。
	（事後）：看護過程の普遍的アセスメント6項目まで記入する。
10回目課題（事後）	全体像をまとめ、看護問題を抽出し、特定する。
11回目課題（事後）	看護問題についてケアプランを作成する。次回授業時まで看護過程・ケアプランを記入しておく。
12回目課題（事後）	作成した看護過程・ケアプラン・行動計画表を授業終了時提出する。
13回目課題（事前）	13回目学習内容について、教科書関連部分（Ⅱ p.278-293）を読んでおく。
14回目課題（事前）	14回目学習内容について、教科書関連部分（Ⅱ p.249-271）を読んでおく。
15回目課題（事前）	15回目学習内容について、教科書関連部分（Ⅱ p.147-149、p.203-204、p.213-215）を読んでおく。

実務経験を活かした教育の取組

・担当教員全員は、看護職として実務経験がある。看護の実践及び教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本授業の講義及び演習を行う。
